

在宅包括サービスおいどサービス運営推進会議 議事録

- 日付: 2025-12-19 15:00～
 - 場所: あずまみまもり薬局
 - 参加者: 伊勢崎市職員、高齢者相談センター職員、区長、民生委員、利用者 3 名
多機職員 2 名
-

1. 利用者状況と活動報告

- 利用者状況: 10 月は 28 名、11 月に新規 1 名が加わり 29 名で満床。介護度は 1 から 5 まで様々で、平均は約 3.0。
 - 活動報告:
 - 消防避難訓練 (11/27): 脱衣所の乾燥機からの出火を想定し実施。利用者誘導、水消火器の操作、階段での避難方法 (車椅子での移動、緊急避難用担架の活用) などを学んだ。部屋が空であることを示す目印 (枕をドアの外に置く) が有効だった。
 - 制作活動: クリスマスツリーを制作。
 - 研修報告:
 - スタッフ 2 名が「胃ろうによる経管栄養実施研修」に参加。
 - 伊藤氏が「働くことが楽しくなるコミュニケーション術」研修に参加し、「認知症の人の介護の可能性」というテーマで講師も務めた。
 - 法人作成の「吐物処理方法の動画」を全スタッフが視聴予定。
 - 看取り: 10 月、11 月の看取りはなかった。
 - 身体拘束: 前回の会議以降、該当する事案はなかった。
-

2. 在宅介護に関する意見交換と課題

介護者の負担と葛藤

- 身体的・技術的負担: 被介護者の身体介助 (移乗など) における腰の負担や、正しい介助方法の知識不足についての悩みが共有された。市の講座などで介護技術を学んでおけばよかったという意見があった。
- 精神的負担:
 - 家庭内で一人で介護を抱え込むと精神的に追い詰められることがある。
 - 介護サービスに感謝しつつも「迷惑をかけているのではないか」という罪悪感を感じることもある。
 - 過去に家族を施設に入れた経験からくる葛藤や、周囲から「いつ返すのか」と言われる辛さも共有された。

介護サービス・支援の重要性

- **精神的サポート:**
 - スタッフが話を聞いてくれることや、連絡帳での短い一言の共有が大きな精神的支えになっている。
 - 困りごとへの迅速な対応やスタッフ間の連携に感謝の声が上がった。
 - **サービスの活用:**
 - デイサービス、訪問看護、ショートステイなどを利用することで、介護者の時間も確保でき、安定した生活につながっている。
 - 施設利用によって生まれた「良い距離感」が、結果的に家族に優しく接することを可能にし、お互いにとって良い結果につながるという見解も示された。
 - **支援体制:**
 - 困った時に「助けて」と声を上げられる関係性や、相談できる場の重要性が強調された。
 - 医療や介護の知識がなくても専門家が身近にいてくれる安心感が語られた。
 - 介護を一人で抱え込まず、様々な人の手を借りること、専門のスタッフに任せることで本人がより幸せな生活を送れる可能性がある点で意見が一致した。
-

3. 運営推進会議の今後の活用について

- **アンケート調査結果:**
 - 利用者 29 名を対象にアンケートを実施（回収率 54%）。
 - 「同じ立場で介護する人の話が聞けてよかった」などの肯定的な意見があった。
 - 参加意欲はあるが、開催時間（金曜午後 3 時）が合わないという意見があり、今後の工夫が検討されている。
 - 内容として「医療や介護に関するミニ講座」を希望する声があった。
 - **情報共有の改善:**
 - 会議の議事録が法人のウェブサイトで公開されているが、周知が不足していた。
 - 今後は手紙での配布や、QR コードを活用してスマートフォンで内容を確認できる方法を検討していく。
-

4. その他報告事項

- **ユニフォームの変更:** 来年 1 月からユニフォームが新しくなる。
 - **5S 委員会の指摘と改善:** 法人の 5S 委員会から倉庫内や脱衣所の整理整頓に関する指摘を受け、改善に取り組む。5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）を通じて働きやすい職場を目指す。
-

5 アンケートより

- 本日の会議の乾燥や内容等についてのご意見がありましたらお聞かせください。
 - 介護補不安や思いを表出できる場がある事が大切であると、改めて感じ、有意義な買いであったと思います。
 - 今更ですけど、気持ち的に助けていただいた感じです。ありがとうございました。
 - とても有意義な会議でした。次の機械にも参加したいと思います。